

森林火災で標語入り切手

1958年3月5日・西ドイツ発行

平岩道夫 (切手評論家)

“火災防止”は世界各国の永遠のテーマとなっているが、あらゆる図案の切手があるのに、なぜかこれをうったえた図案の切手は少ない。

そのなかの貴重な？（皮肉にとらないでください！）1枚、それがここに紹介する切手である。

1958年3月15日に発行されたもので、文字通り“森林火災防止”をテーマにしたものの。

切手に描かれている「DEUTSCHE BUNDESPOST」とは「西ドイツ郵便」という意味であり、数字の“20”が額面というわけだ。

ここで注目したいのは、燃えつきた森を描いた切手の図案の中央に「VERHÜTET WALDBRÄNDE!」と書かれた標語——。

その意味はズバリ「森林火災を防ごう」というもの。なかなかユニークな切手として知られている。

この切手の刷色は、だいたいと黒が使われており、決してハデな切手ではない。

さらに西ドイツでは、1971年から74年にかけて“事故防止シリーズ”と銘打った切手を通して、多くの国民に知らせようと、たいへんな努力をしている。

事故防止をうったえた10種の切手の図案は——



①マッチ1本火事のもとを知らせる火の不始末、②こわれたハシゴにのり、転落する女性、③工事に使われる円形のこぎり、④日本でも取締りがきびしい飲酒運転、⑤頭上からの落下物に注意、⑥電気の配線などで、欠陥プラグ、⑦路上を靴をはいて歩いている、釘などがかさなり事故に……、⑧子どもがボール投げをしているうちに道路で進行中の車に……、つまり飛び出し注意、⑨船からの吊り荷落下による事故、⑩注意したい路上のマンホール……。

以上のうち、①の“火の不始末”と、⑥の“欠陥プラグ”による火事は、明らかに“火災防止”に関係の深い切手ということになる。

おもしろいことに、この10枚の切手は、同じ図案で、ベルリン地区からも発行されており、また、全額面にコイル切手が一部切手帳にもなっている。

切手マニアが400万人もいる——といわれる日本でも、こういった図案の切手が発行されれば、より効果をあげられるのに……と思う昨今だ。